

## 1 妙高市教育研究会算数部の紹介

当市の教育研究会は、市内各の小学校・中学校・特別支援学校の教職員によって組織されている。算数・数学部の構成人数は23名である。

活動は年3回であるが年度当初の会に於いて、年間の活動方針を共通理解し、その後方針に従って各自学力向上に向け研修を深めるとともに、自身の資質向上を目指すものである。

## 2 活動方針

- 市内の算数・数学部の教職員が、学年が進むにつれ「児童生徒が算数・数学が好きだ。面白い」と感じることでできる授業の工夫・改善を図る。
- 全部員が授業実践を行い、その成果を持ち寄り情報交換する機会を設け、互いの資質が向上できるよう機会を設定する。(2・3回目は実践発表会)
- 実践を公開し合う機会を公表し、授業実践の交流を行う。(小・中学校授業交流)

## 3 活動報告

今問われている学力向上のため教師自身の「教師力・指導力」を改善し、より確かな力がどの子どもにも身につく指導の在り方を工夫する。

### (1) 第1回 研修会

- 3部門のプロジェクトに分かれ、どんな取組が可能か協議
  - ①「活用力」を培う教材開発プロジェクト
  - ②「学習チェックシートと家庭学習」プロジェクト
  - ③「授業力」チェックシート活用プロジェクト

### (2) 第2回 研修会

- 教育課程の伝達講習並びに①②③プロジェクトの各自の取組状況報告  
各自のレポートを持ち寄り、各プロジェクト毎に情報交換を行う。

### (3) 第3回 各自の研修のまとめ(実践のまとめ)

- 第2回目の振り返り、各自が更に工夫し改善を図ったことを加味した実践レポートとしてまとめ(妙高の教育)、足跡として記録に残し今後の実践に活かす。

## 4 雑感

取組の中では、生徒に授業に対してアンケートを採って授業改善をどんな角度から進めたらよいかを模索したものもあり、大変参考となった例があった。児童生徒にとって「分かりやすい授業を」「説明を分かりやすく」「黒板の字を丁寧に書いて」という意見もあり、小・中共通した課題もあった。また、「授業が楽しいと感じた頃」は、小1・2で高く、小3～中1まではほぼ同程度、中2で激減するというデータも得ることができた。まさに教師自身、小学校の時点から学習意欲の湧く授業を継続していくことが何より大事かが明確となった。(小・中の連携、中1ギャップの解消の糸口か)

私たち教員は、「授業で勝負」である。日々の研鑽に期待したい。